



マナビDX Quest：2022年度 第2ターム ケーススタディ教育プログラムGold修了証 (AIの実装を通じたDXプロジェクトの疑似体験)

Issuer マナビDX Quest事務局

Issuer on 02/16/2023

Awarded to 安富 燦希 (CHANHI YASUTOMI)

DESCRIPTION

経済産業省主催のデジタル推進人材育成プログラム「マナビDX Quest」の実践的な「ケーススタディ教育プログラム」において、AIモデルの構築(PoC)及び、導入にむけたプレゼン資料作成等に取り組み、DX推進で求められる一連のプロセスを学習しました。「マナビDX Quest」は、地域企業・産業のDXの実現に向け、ビジネスの現場における課題解決の実践を通じた能力を磨くためのプログラムで、2022年9月～2023年2月中旬の期間、1,800名程度の学生・社会人を対象に実施しました。プログラムは企業データに基づく実践的な「ケーススタディ教育プログラム」及び、地域の中小企業との協働による、デジタル技術を活用した課題解決型「現場研修プログラム」から構成されます。プログラムを通じて、受講生は、デジタルの経験有無にかかわらず、企業におけるDXを推進する変革の考え方やプロセスを学び、志を同じくする幅広いデジタル人材とのつながりを構築することができます。

EARNING CRITERIA

2022年度第2ターム(2022年11月19日～2023年2月11日)において、「ケーススタディ教育プログラム」に取り組み、各課題および各評価ごとに定められた提出期限内に、以下を全て提出すること

- ・ 課題(演習01～演習05の5回)
- ・ 他受講生(最大8名)の提出課題への評価 (演習05の1回)

== 「ケーススタディ教育プログラム」の概要 ==

＜プログラムの内容＞

- ・ 講師による座学ではなく、参加者が情報交換して学び合い・教え合いながら、与えられた課題を解決するPBL(Project-based Learning:プロジェクト型学習)形式のプログラム
- ・ テーマを1つ選択し、9週間のPBLで、ビジネス課題から変革推進設計・プレゼン課題まで、DXを推進し組織を変革するプロセスを一気通貫で学習
- ・ テーマ：工数予測(製造)、加工内容の図面解析による自動見積(製造)、欠品率軽減に向けた業務改善(製造)、業務最適化(建築製造)

＜学習内容＞

「課題解決のためのAI実装プロジェクト」の疑似体験を通じて、AIモデルの構築/評価から、実装運用・展開計画までを策定。最後に、全社DX変革に向けた検討アプローチを体験

＜取組み課題＞

- **ビジネス課題**：実企業の課題に対し、現場からの要望や業界特有のハードルを理解した上で、AI開発に向けた要件定義、AI導入を円滑にするためのプロジェクト設計を実施
 - 要求定義（演習01）
 - PoC計画（演習02）
- **デジタル課題**：課題解決のための打ち手の一つとして、AIモデル構築・検証を実施
 - モデル開発(PoC)（演習03）
- **変革推進設計・プレゼン課題**：検証結果を基にしたDX変革ロードマップ策定とプレゼン作成。組織変革を進める上で考慮すべき観点を受講生間でディスカッション
 - 本番実装・運用・展開計画（演習04）
 - 意思決定者へのプレゼン（演習05）
 - 全社的なDX推進に向けた理解醸成（演習06）

EVIDENCE

教材テーマ PBL05：工数予測（製造業）